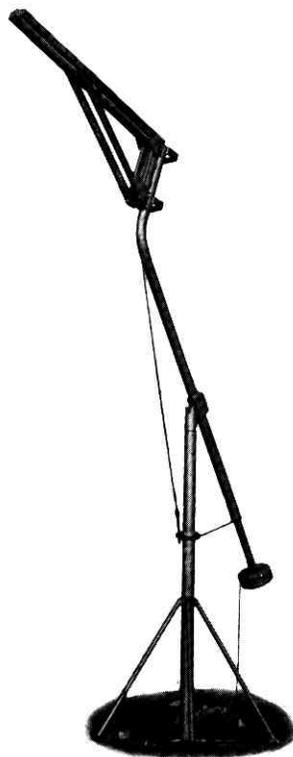


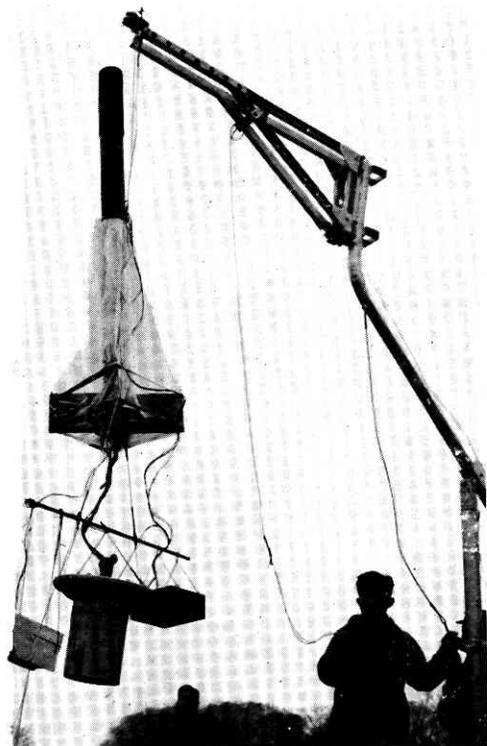
←D-1号機ダミーテスト
小バルーンとダミーロケットを
取り付け中 (本庄市西小学校)

↓試作したランチャー

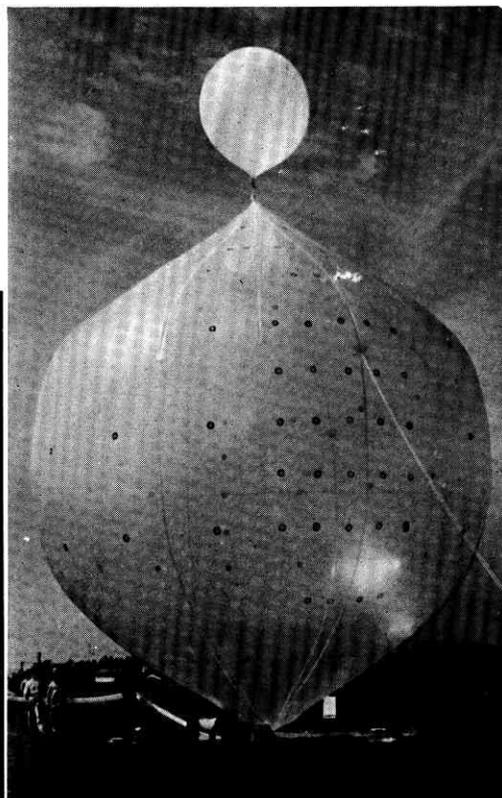


ロクーン予備実験

新放球方法として小バルーンと天秤
式のロケットランチャーを採用する
ことになり、昭和34年2月3日生研
グラウンドでこの放球方法のテストを
行ない、同月20日、埼玉県本庄で非
燃焼模擬推進をつめたダミーロケッ
トD-1号機を放球し、上昇中の推進
部の温度測定を行なった。また5月生
研グラウンドで気球の強度と小バルーン
の切り離し装置の試験を行なった。



450m³気球の加圧破
壊実験(5月・生研)
黒点はポリエチレン
膜の伸びを測定する
ためのマーク →



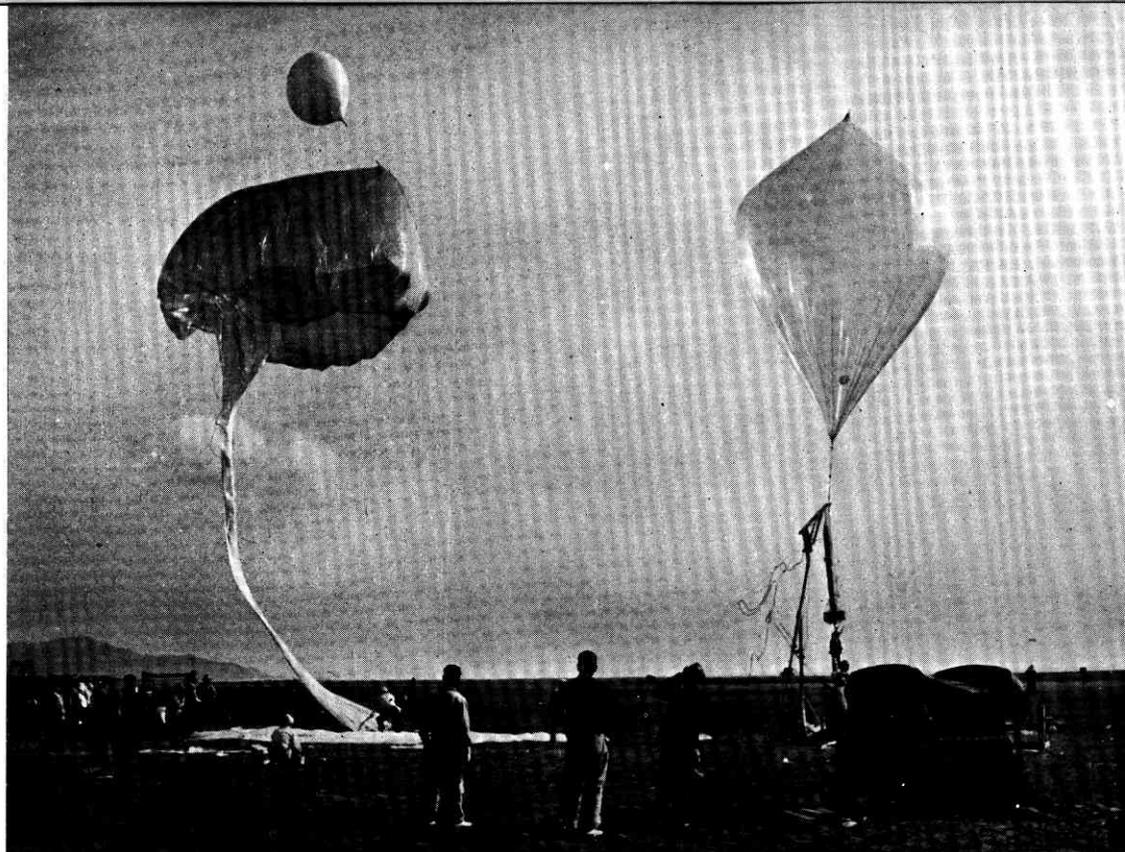
↑D-1号機ダミー
テスト
ダミーロケットと吊
り下げ計器

サーミスタ用の電源
と切換装置
圧力容器の中のジャ
ーに収め、圧力と温
度の影響を防ぐ →



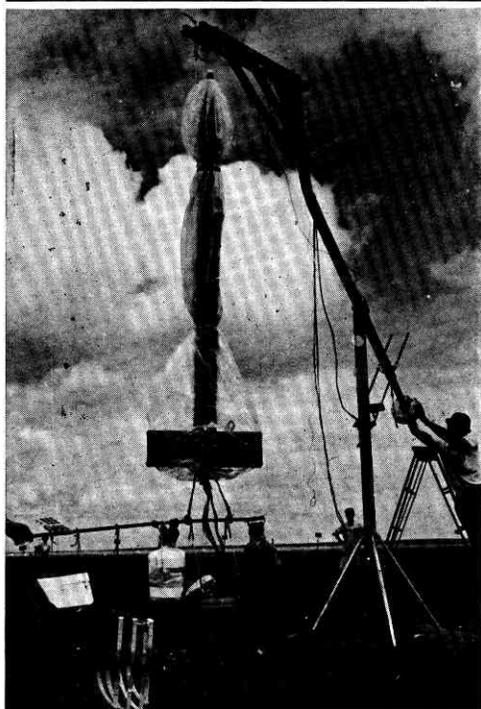
ロケット 発

昭和34年7月
地に選定した
浮遊中のロケ
ンの状態を測
飛昇実験を行
シグマ3型1.
った。



↑ D-2号機ダミーテスト

大バルーン放球の瞬間、右方が補助気球、左方が主気球、主気球の上の小さいゴム気球は主気球頂部に取り付けた精密差圧計を水素充填中に持ち上げておくためのものである。



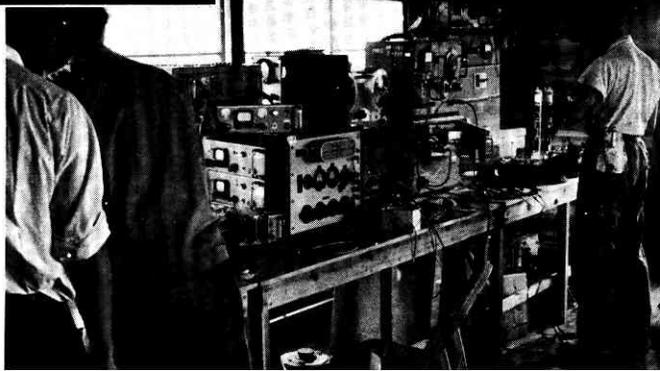
← D-2号機ダミーロケットとランチャー

ロケット下方の桿に吊り下げられている装置は向って右から上昇速度計、サーミスタ用の電源と切換装置の圧力容器、精密気圧計、ポリエチレン試験片、ラジオゾンデ、またゾンデの上方桿に取り付けられているのは太陽電池



↑ピラニゲージ(上)
加速度計(中央部)

準備中のテレメータ受信室内部 →



↑シグマ3型2号機

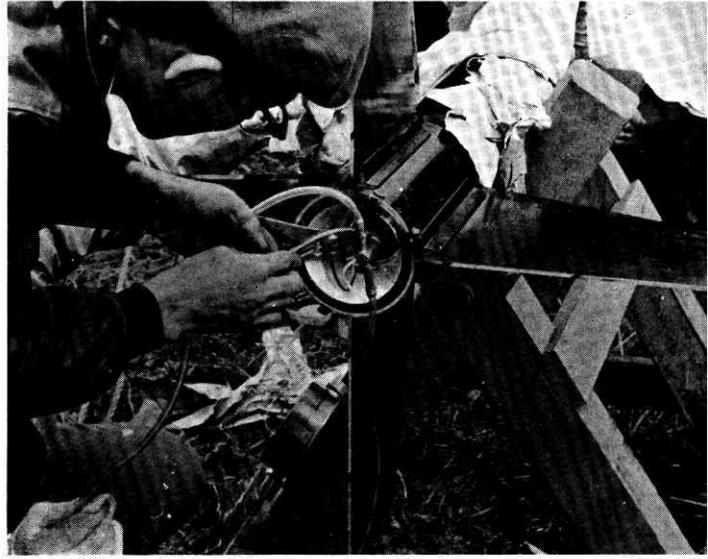
ン予備実験と 射実験

21日、新しくロケーン実験
青森県沖村海岸で上昇および
ット推薬部の温度と大パル
定するため、D-2号機の放球
ない、同年10月1日、同地で
2号機の放球発射実験を行な

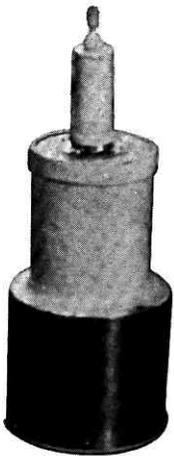


↑シグマ3型2号機頭部の組
み立て

シグマ3型1号ロケット放
球前のノズルロージャ気
密試験 →



シグマ3型1号ロケット
(川越の富士精密KK組立場) ↓



↑ 宇宙線測定機

ロケット搭載の計器

